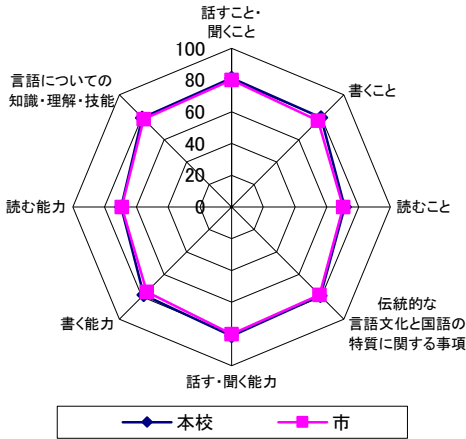


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	81.3	80.1	77.9
	書くこと	79.6	76.8	65.3
	読むこと	71.2	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.1	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	81.3	80.1	77.9
	書く能力	78.3	75.6	64.2
	読む能力	69.6	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	79.5	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

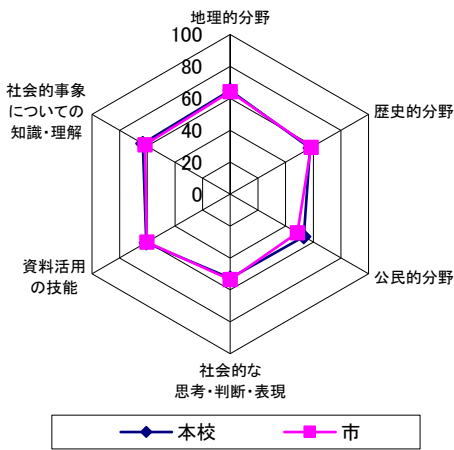
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○一項目を除き、ほとんどすべての問題で市・全国の平均を上回ることができた。 ○特に、「話し合いの内容を聞き取り、話の内容を正確に聞き取る」問題では90%を超える正答率で、市の平均を4%上回った。 ●「互いの発言を検討して自分の考えを述べる」問題では、57%と正答率が低く、無回答率も7%前後と高く、課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「聞き取りテスト」を、今後も継続して実施していきたい。 ・場面や相手に応じた言葉を選択し、よりわかりやすく伝えることを意図した話し合いを設定する。
書くこと	○「自分の考えの理由」を書く問題では、市の平均を6%上回り、活用力が、身に付いてきていることがうかがえる。 ○特に、作文の問題で三段落構成で文章を書く問題では、市の平均を10パーセント以上も上回る正答率だった。 ●複数の資料を活用し、自分の意見を根拠を明確にしながらかく問題では、正答率が市平均を6.3%も下回っている。	・「書くこと」への抵抗感がある生徒がいるため、今後も授業で自分の意見を書く場面を意識的に多く設けていきたい。 ・記述式の問題において、複数の領域の観点絡む問題での無回答が目立つので、読み取った要旨を自分の言葉でまとめる活動や、文章の構成や展開を踏まえ、根拠を明確にして考えを述べる活動などを取り入れ、重点的に指導していきたい。
読むこと	○文学作品において、登場人物の心情を捉える問題では、正答率が85%を超え、市の平均を6%近く上回った。 ●説明文の内容を読み取る問題の、4つの設問のうち、市の平均を上回ったのは1つだけで、説明的文章を展開に即して内容をとらえる力に課題があることが明らかになった。 ●特に、文章の構成や展開を捉える問題では、市の平均を5%近く下回った。	・説明的な文章の読解に課題が見られたので、教科書教材において、要旨を捉え、自分の言葉でまとめる活動をより積極的に取り入れていく。 ・さまざまな説明文に触れ、構成や論述の工夫を捉えさせたい。 ・直截的な表現ではなく、登場人物の行動や言葉、情景描写から心情を読み取る活動をより積極的に取り入れ、行間を読む力の育成に努めていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、市平均を4.5%上回った。 ○敬語に関する問題では市の平均を4.2%も上回る結果となった。 ●漢字の「催す」の読みを問う問題では、正答率が52.5%と、他の3問の90%近い正答率と比較して、格段に低かった。 ●用言の活用に関する問題では、正答率が全国平均を上回ったものの、46.7%と半数を割る結果となった。	・ほぼ毎時間行っている、漢字や慣用句などに関する小テストの実施が成果に出ていると考えられるため、今後も継続的に取り組んでいきたい。 ・今後は文法問題も、小テストに取り入れて定着を図りたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	64.9	64.1	57.5
	歴史的分野	57.7	58.4	52.8
	公民的分野	53.2	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	52.7	53.6	47.5
	資料活用技能	60.8	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	63.2	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

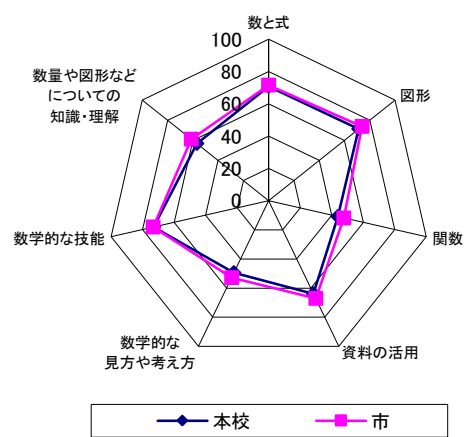
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○どの分野においてもほとんど市・全国の平均を上回ることができた。 ○記述の問題が市・全国を大幅に上回り、自分の考えを表現する力が身についたと考えられる。	鉱産資源に関する資料読み取りの力が市・全国を下回ったのでかけ地図やデジタル教科書を用いて授業を行い資料読み取りの技能を磨きたい。
歴史的分野	○観点別では知識を問う問題の正答率がほぼ、市・全国の平均を上回った。 ●一方、社会的な思考・判断・表現の観点では、市・全国平均を下回った。	知識はあるていど身につけているので、知識を基に表現する力の育成を重点的にしていきたい。具体的には知識的事象1つ1つを結び付けた指導を徹底したい。
公民的分野	○ほぼすべての正答率で市・全国平均を上回り、着実に知識が定着している。 ●社会権の種類については理解が低く、市・全国平均を下回った。	人権の種類について、苦手とする生徒が多いので単元の最後に人権についてまとめ、ふりかえりの時間を取り知識の定着に努めていきたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.7	71.5	66.8
	図形	71.2	73.8	70.4
	関数	43.9	47.8	41.6
	資料の活用	63.9	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	49.5	52.8	45.8
	数学的な技能	73.0	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	56.8	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

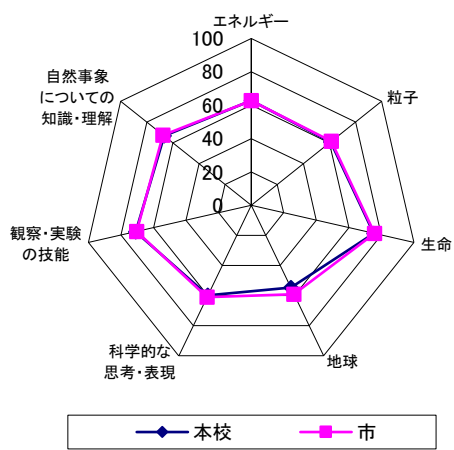
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数学的な技能を観点とする計算問題は、市の平均を上回っている。 ●連立方程式や2次方程式の計算では、市の平均を下回り、2次方程式については平方根の理解度と関連している。文章問題の立式では、読み取る力に課題が見られる。	・学習内容が進んでも、既習事項をおさえながら、定着度に応じた計算練習をワークシートを工夫しながら行う。 ・計算上の規則だけを強調するのではなく、それが成り立つ理由を丁寧に教える。 ・連立方程式や2次方程式を利用することのよさにも触れ、文章問題に取り組もうとする態度を育てる。
図形	○平面図形の移動や、平行線に関わる内容が市の平均を上回っている。 ●知識・理解に関わる証明の必要性和意味や多角形の角について、他の図形問題の正答率と比べて市と校内ともに正答率が低い。	・証明問題については、書くことに対して面倒くさいという意識が大きい。何を目的とし、何に注目したらよいのかなど、論証の筋道を丁寧に指導する。基本的な図形の性質(定理)が身に付くように、パターンの練習を行っていく。
関数	○関係式にxやyの値を代入することで求められる問題の正答率はほぼ市の平均に近い。 ●2乗に比例する関数では、文章問題を読み取り活用することができておらず、正答率が18.0で極端に低い。 ●グラフの特徴を説明する問題では、市の平均を10ポイント下回っている。表現力に課題がある。	・関数に対する苦手意識が強く、正答率が高い問題でも一般的な解き方を覚えていて解いているにすぎない。関係式の持つ意味、グラフの意味や見方、表とグラフと式との関連性など、根本的な関数の理解を深めさせて行きたい。
資料の活用	○ヒストグラムの特徴を理解しており、正答率が市の平均よりも高い。 ●多数回の試行の結果から確率をとらえる問題では、関数と関連してグラフを読み取る力に課題があり、市の平均を下回った。	・身の回りの題材からグラフ化したり、分析を試みたりすることを通して、相対度数、階級、代表値等の用語を身近に感じられるようにする。 ・確率では、文章を読み取って場面を把握する力が必要であるため、樹形図やパターン分けなど順序よく考えて分かりやすくする方法について指導する。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.8	62.7	57.6
	粒子	61.0	61.5	57.7
	生命	75.3	75.8	72.1
	地球	54.8	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	59.8	61.0	54.8
	観察・実験の技能	70.9	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	66.7	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

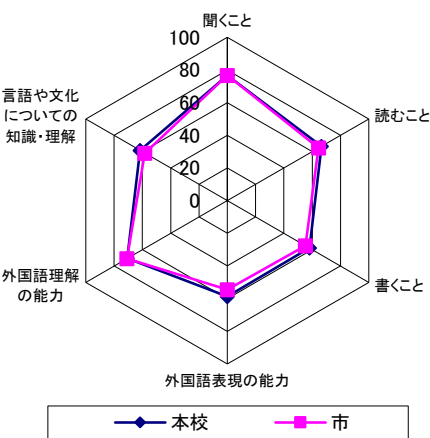
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均とほぼ同ポイントであり、参考値よりも5.2ポイント上回った。 「物体の運動」では、実験の結果から速さを求めることや斜面の角度と速さの関係を理解できている。 ●「音の性質」では、弦と音の関係の理解が不十分であると考えられる。	・身近な物理現象であり、実験のデータを活用していくことに興味を持って取り組める。一方で苦手意識を持つ生徒も多く、中でも内容の定着が難しいと思われるのは、光や音など、目で見ることのできない事象である。さまざまな例や実験を実施することで、学習の定着を図りたい。
粒子	○市の平均とほぼ同ポイントであり、参考値よりも3.3ポイント上回った。 「鉄と硫黄」では、化学変化を化学反応式にあらわすことが理解できている。 ●「身のまわりの物質とその性質」では、密度を計算し物質を固定することが不十分であると考えられる。	・基本的な実験の技能を身につけるために、単元の中でパフォーマンステストを組み入れる。原子、分子、イオンなど目に見えないものの学習の時は、モデルで表すなど、視覚的に理解しやすい工夫をしていく。計算することに苦手意識を持つ生徒も多く、練習問題に取り組ませることで定着させたい。
生命	○市の平均とほぼ同ポイントであり、参考値よりも3.2ポイント上回った。 「生物の成長とふえかた」では、生殖についてや、成長の順序をよく理解できている。 ●「動物の分類と生物の進化」では、爬虫類と両生類の分類が不十分であると思われる。	・身近な生き物に興味を持って触れることが少ない。植物や動物の名前を知らないことが多い。イモリとヤモリの違いについても理解が不十分なことから言える。映像の資料を多く活用することで理解し、興味関心を持たせたい。学習内容については繰り返し復習することで、定着させたい。
地球	○市の平均より4.2ポイント下回っているが、参考値よりも9.8ポイント上回っている。 「地層」では、石灰岩の層を見分ける方法を理解できている。 ●「日本の気象」では、天気図の見方の理解が不十分であると思われる。	・地層や日本の天気など、自然現象について教室での再現が難しい学習内容である。そのため、教材を工夫し、視覚的に生徒のイメージを作れるようにしたい。自然の現象について興味関心を持ち、身近な学習としてとらえさせたい。復習を繰り返すことで、学習内容の定着を図りたい。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	76.7	76.8	73.1
	読むこと	66.6	64.5	59.9
	書くこと	58.1	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	58.7	54.5	59.0
	外国語理解の能力	70.7	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	61.5	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全10問あるうち6問は市の平均以上の正答率で、他3問は1ポイント以内の差とほぼ市の正答率と同程度となり、中学2年生の時に行われたとちぎっ子学習状況調査の結果から「聞くこと」に関して大幅な改善が見られた。 ●全10問のうち1問は、英文の要点を聞き取る問題であり、市の平均を15.3ポイント下回った。まとまった長さの英文を聞き、要点を押さえることに課題があることが分かった。	・フォニックスの確認や、リスニング指導、ディクテーションなどを通して、明らかにリスニングへの苦手意識とリスニング能力に改善が見られた。クラスルームイングリッシュやインタラクションなどに加え、継続してフォニックス指導等の音声指導を行っていく。
読むこと	○語形・語法の理解については、4問全て市の正答率を大きく上回った。英文・対話文の内容理解は、活用問題においてもおおむね市の正答率と同等以上である。 ●大まかに内容を理解できているものの、語彙が定着していないため、読み違いが見られる。基礎となる語彙の定着に課題があることが分かった。	・品詞や語順を意識して繰り返し指導を行ってきた結果が見られた。読解の基礎となる語句を定着させていく指導の充実を図る。
書くこと	○単語の並べ替えによる英作文の問題では、4問中3問が市の正答率を最大16.0ポイント上回っている。また、5文以上の英作文についてもおおむね市の正答率を上回る結果となった。 ●語彙の知識・理解を問う問題では、単語を正しく書く問題4問のうち、3問が市の正答率を下回り、残る1問も0.2ポイント上回るにとどまった。基礎となる語彙の定着に課題があることが分かった。	・課題となった語彙の知識・理解を問う問題は、どれも中学1、2年で習う語であった。聞く・話す活動との繋がりを意識しながら、既習の語彙について書く活動を意識して取り入れていき、語句の定着を図る。

宇都宮市立国本中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習強化週間の実施	・定期テスト前の1週間は家庭学習ノート を毎日提出し、学習状況を学年で確認し ていく。また、定期テスト3日前には、5教 科の担任が学習相談を実施し、テスト範 囲の質問に答えたり、ワーク等の指導も 行う。教室に学習に関する標語等を掲示 し、学習意欲を喚起していく。	・生活アンケートにおける授業前の着席や学習用 具の準備、また、ノートのまとめ方や繰り返し学習 等の学習の仕方についての全ての項目で肯定的 回答が昨年度を上回っており、学習に対する意欲 の向上が見られ、結果として学力が向上した。今後 も学習に対する更なる意識の向上が図っていける よう、様々な方策を講じていきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・生活アンケートでは、全ての学年で自分で計画を立てて家庭学習に取り組むといった主体的な学習態度に課題があるため、学習相談の取り組みを継続させながら、計画的に学習を進めるための指導に力を入れていく。
- ・外部講師による講話等、総合的な学習の時間や学級活動、特別の教科道徳等の指導を通して、学習の重要性に関する意識を高めていく。
- ・毎年、テレビ、ビデオ、スマートフォンやタブレット、パソコンの動画を見ている時間が宇都宮市の平均時間を上回る傾向にあることが問題となっており、研修等を通してそうした問題に対する教職員の意識を高めるとともに、日頃から生徒への注意を喚起していく。